

有機マグネシウムで抑制

大腸がん、タテホ化学が確認

【姫路】タテホ化学工業（兵庫県赤穂市、濱哲則社長、0791・42

・5041）は東海細胞研究所（岐阜市、太田義和社長、058・273

・4399）と共同で、有機マグネシウムが大腸がん発生を抑制すること

を突き止めた。マウスを使った実験で濃度175ppm（ppmは100万分の

1）の有機マグネシウム投与時にがん発生を50%抑える効果を確認した。今後作用メカニズムの解明にも着手する。

マウスの実験には岐阜大学の協力を得た。生後4週間の野生型雄マウス80匹を20匹ずつ4グループに分けて16週間調査。すべてのグループに基礎

食とともに大腸がん誘発物質、発がん物質を投与した。そして第2グループに7ppm、第3グループに35ppm、第4グループに175ppm濃度の有機マグネシウムを投与、投与しなかった第1グループと比較した。第1グループのマウスは87・5%が発がんしたが、第2、第

3、第4の順に発がん率は低くなり、第4では発がん率が50%にとどまった。

タテホ化学は産業・医療用ガス大手のエア・ウォーターの子会社。製塩業が盛んだった赤穂市に立地し、海水から塩を分離して残るにがり成分を材料にマグネシウム化合物の製造などを手がけてきた。マグネシウムはカルシウムと同様に細胞の分裂・増殖にかかわるミネラルとして知られる。マグネシウムが体内で吸収されやすいことから消化器系がん抑制とのかわりを研究していた。